

福島の子どもたちに
学びの楽しさを
取り戻したい

たに のぶたか
谷 信孝

福島大学相双地域支援サテライト 特任専門員

昭和30年(1955)、東京都生まれ。
早稲田大学卒業、学生時代から子どもの教育関係のボランティアに携わっていた。
2011年、SONYを早期退職、ダイサービス施設長・保育園運営会社社長を経て、
2016年、福島大学特任専門員に就任。

福島とは全く縁のない生活を送っていました。

震災後、経団連主宰の「企業人ボランティア」に参加したこと、これが私の人生を大きく変えました。「キャリアの締めくくりは福島再生のお手伝いをしたい」との思いが募り、23年勤務したSONYを早期退職。

2016年、被災地の再生や子どもたちの支援に取り組んでいた福島大学の特任専門員に就任しました。被災地の教育環境整備が最初のミッション。子どもたちの教育環境を知るため、学校や教育委員会を訪ね、現状をヒアリング。震災の影響で教育環境が整わず、子どもたちが「学びの楽しさ」を忘れてしまっていることを知りました。

そこで、大学・NPO・企業などの協力を得て「学ぶ楽しさ」「自己肯定感」「心と身体の解放」をコンセプトに理科実験、ICT、モノづくり、身体表現、食育などのワークショップを企画・コーディネートしています。

現在は富岡町のサテライト本所を拠点に、地元の教育機関と連携しながら子どもたちを応援する活動を行っています。

まだ十分とはいええない被災地の教育環境。今後は子どもたちの未来の夢や希望につながる、高校や大学など高等教育機関の整備を進めてほしいと願っています。



自分の存在意義を確かめる5年間。2020年11月
大熊町 熊町・大野小学校(会津若松避難先校舎)にて